

博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業 ＜2007年度 海外教師日本研修プログラム 招へい者決定＞

財団法人博報児童教育振興会（理事長 近藤道生）は、3つのプログラムで構成される博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業の1つ目のプログラムである、海外教師日本研修プログラムの招へい者を決定し、6月1日付で発表しました。

- ・ 厳正な選考の結果、初等・中等教育にて日本語を教える外国人教師計17名の招へい者が選出されました。今回選出された外国人教師はインド、インドネシア、タイ、マレーシア、台湾、ベトナムの6カ国の方々です。（別紙1）
- ・ 本プログラムは2007年7月10日～7月24日に、独立行政法人国際交流基金と社団法人国際日本語普及協会の協力のもと実施されます。

【本助成事業と当プログラムの内容】

本助成事業は、国際化が進む昨今において、日本の児童が日本のことばと文化の的確な理解に根ざし、さらに健全な国際人へ成長することの支援を目的に、日本の児童・生徒の異文化体験、日本語を学ぶ海外の児童・生徒の日本体験を核とした、博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業として開始いたしました。

本事業は、海外の日本語教師を日本へ招へいする「海外教師日本研修プログラム」、海外の児童・生徒を日本へ招待し、日本の児童・生徒との交流を支援する「海外児童日本体験プログラム」、日本の児童・生徒を海外に派遣し、海外の児童・生徒との交流を支援する「日本児童海外体験プログラム」の3つのプログラムで構成されています。（別紙2）

本年度は、一つ目のプログラムであります、「海外教師日本研修プログラム（海外日本語授業環境整備助成）」（別紙3）を実施いたします。

＜この件に関するお問合せ＞

〒101-0054 千代田区神田錦町3-22

財団法人 博報児童教育振興会

博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成担当

TEL 03(3233)6788

FAX 03(3233)6325

Eメール hakuho.foundation@hakuho.co.jp

ホームページ <http://www.hakuho.co.jp/foundation/>

別紙1. 2007年度 海外教師日本研修プログラム 招へい者一覧

氏名	所属機関	国名
デバスマタ・ダス	Ramjas School	インド
ジャスプリート アフジャ	BLUEBELLS SCHOOL INTERNATIONAL	インド
パルミート ガンヴィール	DELHI PUBLIC SCHOOL, DWARKA	インド
SUWITO,SS	SMP SULTAN ISKANDAR MUDA	インドネシア
シルヴィア ダマヤンティ	Sant Yoseph Junior High School	インドネシア
ネティ ヌルジャナティ ブディニンシー	SMP PLUS ALGHIFARI BANDUNG WEST JAVA INDONESIA	インドネシア
ニア サリブラン	LABORATORIUM PERCONTOHAN UPI JUNIOR HIGH SCHOOL	インドネシア
カナパット ルーンピロム	CHULALONGKORN UNIVERSITY DEMONSTRATION SECONDARY HIGH SCHOOL	タイ
ウイナイ ロイチャローン	NAWAMINTHRACHINUTHIT TRIAMUDOMSUKSANOMKLAO SCHOOL	タイ
サーウイトリー テイヤタム	Yupparaj Wittayalai Scool	タイ
ウィー・グアン・リー	SEKOLAH MENENGAH SAINS TUANKU SYED PUTRA	マレーシア
マリアナ ビンティ ナシュムディン	DATO' ABDUL RAZAK SCHOOL	マレーシア
ナディア ソー	METHODIST GIRLS SCHOOL	マレーシア
チョウ シュク イ	Pingtung Country Private Meiho Senior High School	台湾
王 念慈	静修女中	台湾
グエン・ホアン・フォン・ニー	Le Qui Don Secondary School	ベトナム
グエン・ミン・タム	Vo Truong Toan Secondary School	ベトナム

別紙2. 博報「世界こども日本語グローバルネット推進」助成事業について

◆ 事業目的

- ・ 国内外の児童・生徒が、日本語による国際交流を行うことを通じて、日本のことばと文化を理解・再認識し、健全な国際人として成長することに寄与する。
- ・ 海外の学校教育における日本語授業の活性化や授業環境の向上を図り、日本のことばと文化への理解・関心を促進する。
- ・ 中長期にわたって事業を継続・展開することで、日本語教育のグローバルネットワークを構築する。

◆ 事業構造

本事業は、日本児童・生徒と海外で日本語を学ぶ児童・生徒との交流を、一定のサイクルで実施し、それに先立つ活動として、海外の日本語授業環境整備のための助成活動を行う構造となっています。

① 海外教師日本研修プログラム（海外日本語授業環境整備助成）

海外の初・中等教育機関（日本の小・中学校に相当）の日本語教師（日本人を除く）を日本に招へいし、研修会の実施など授業環境整備に向けた支援を行う。

② 海外児童日本体験プログラム（日本と海外の児童・生徒との異文化交流助成）

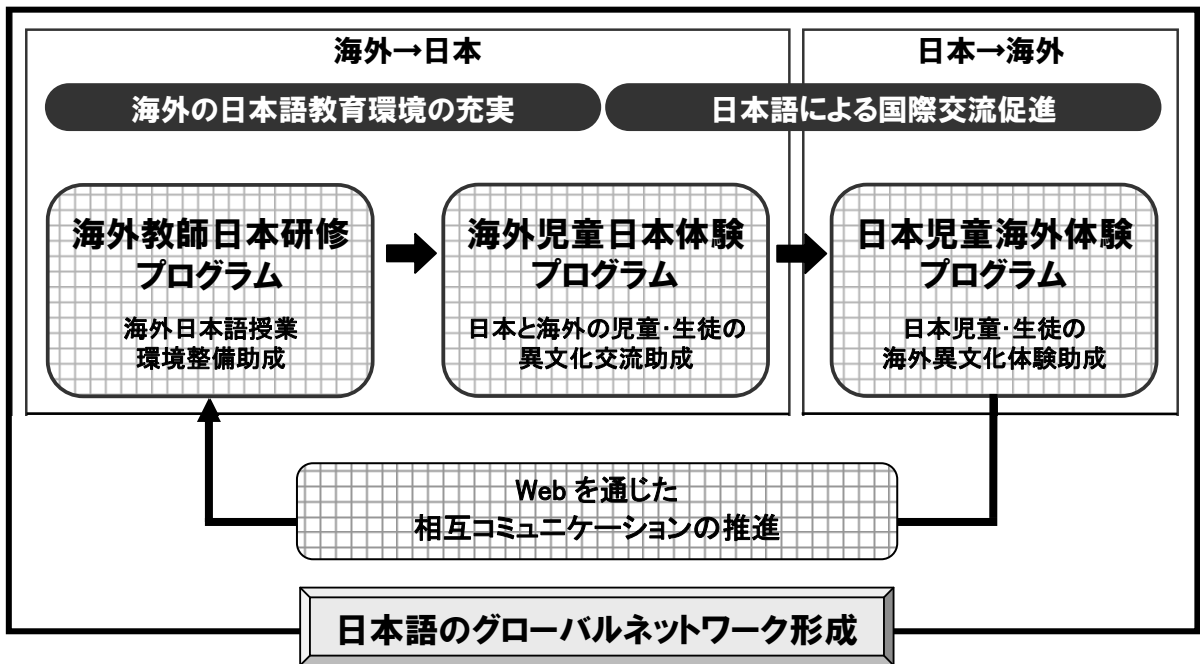
海外の初・中等教育機関（日本の小・中学校に相当）で日本語を学ぶ児童・生徒を日本に招へいし、日本の先端技術や伝統芸能などの文化・社会体験と、学校訪問などの交流を通じた日本語・日本文化への理解と関心の向上を図ってもらう。

③ 日本児童海外体験プログラム（日本児童・生徒の海外異文化体験助成）

日本の児童・生徒の海外訪問を支援することで、同世代の海外の児童・生徒との日本語を通じた交流と、異文化体験による日本語・日本文化の再認識、および国際人としての自覚醸成を促進する。

この事業は、以上の3つのプログラムで構成されますが、これで完結するだけではなく、その後も様々な相談に対する助言や情報提供をWebを通じて展開し、日本語のグローバルネットワークの形成を推進していきます。

<事業構造図>



別紙3. 海外教師日本研修プログラムについて

この「海外教師日本研修プログラム」は、他の2つのプログラム「海外児童日本体験プログラム」および「日本児童海外体験プログラム」につながる最初の活動として行うものです。

◆ 目的

- ①日本語指導法の新しい視点やスキルの獲得
- ②授業で活用できる教材の収集（既存の教材＋独自の“生教材”）

※ 生教材とは…日用品や玩具など、日本の文化・社会を教える際、臨場感をもって伝えることに役立つ補助教材となり得るもの。

- ③世界各国の日本語教師による情報共有

◆ 来日後の体験・研修概要

- 日本人の伝統文化・生活を知る体験プログラム
- 日本の中学生との交流プログラム
- 日本語・日本語指導法研修
- 各国の参加者と専門家を交えた、発見を情報共有するための意見交換
- 生教材活用のための相談会 ほか

◆ 招へい者

- 日本国外において、中学生（12歳～15歳程度）を対象に日本語を指導している外国籍の日本語教師
- 本年度は6カ国より計17名を招へい（別紙1参照）

◆ 助成内容

- 研修・体験の場の提供、およびこれに関わる渡航費、宿泊費、日本滞在中の活動費などの実費支給

◆ スケジュール

- 実施期間：2007年7月10日～7月24日